

# 第417回鉄鋼流通問題懇談会

2011年5月25日(水) 14:30

日本鉄鋼連盟4階・第一会議室

## 議 題

1. 配布資料説明(全鉄連)
2. 全鉄連情勢報告
  - (1) 地区の状況
    - 東京、大阪、愛知、北九州地区概況報告
  - (2) その他地区の概況
    - 鉄流懇5月例会で発表の各地区景況などアンケート結果
  - (3) 総括：林全鉄連会長
3. 意見交換
4. 経済産業省挨拶
5. 鉄流懇会長挨拶
6. その他

○次回以降会議予定

2011年8月24日(水) 14:30 ～

於：鉄鋼会館701号室

## 鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について (2011年5月)

発表項目	発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
		メタルワン	住友商事	阪和興業	メタルワン
1. 需給動向(景況感)		製品によって需給バランスは二極化している。構造管の需要は少なく、溶接管を中心に在庫・供給過多状態で、市況上申は非常に厳しい状況である。しかし、配管関係は震災の復旧需要が継続しており、一部のサイズで品薄状態となっている。	3月末の薄板三品在庫は、前月比9万トン増加の383万トンとなった。メーカー在庫が3万トン減少、問屋・コイルセンター在庫は12万トン増加。震災の影響でサプライチェーンが寸断され、製造業の生産が停滞したことが主因。震災直後は思惑的な買いも入り、災害復旧資材関連の引合が多く寄せられ、取引も一時的に活発化したが、4月中旬以降、荷動きは止まってしまった。各高炉メーカーは原料高騰分を転嫁すべく値上げ姿勢を崩しておらず、市況は弱含みながらも持ち堪えている状況である。	3月末厚中板在庫は、365千トで前月比9千ト減少。ムキ在庫は、減少傾向であるが、規格品が増加。高炉厚板値上げ前の駆け込み分が増加と推測される。市況はメーカー値上げを受けて若干強含み推移。	棒鋼 関東地区の丸棒発注数量はここ数ヶ月20万トを下回るペース(推定)で推移している模様にて足元は極めて低調な需要水準であり、回復には今暫く時間を要する見込み。 形鋼 H形鋼に関し、4月末市中在庫は188千ト(ときわ会全国ベース)と低水準をキープしているが4ヶ月連続での在庫増加となっており、4月出庫量も全国的には3月比落込む中、足元の市中タイト感は薄れつつある状況。
2. 需要産業動向		震災後建築物の延期や中止が相次いでおり、一部復旧需要はあったものの、建設需要は震災以降大幅に減少しており、復興需要を含め当分需要の盛り上がりには期待はできない。自動車関係は生産回復時期については当初予定より早まりそうであるが、足元は非常に悪い。建機は復旧需要を含め需要は非常に旺盛だが、ほとんどのメーカーが部品供給で震災の影響を受けており、減産を余儀なくされている。	3月の国内新車販売は41万台と、震災の影響により前年同月から▲37.1%と大幅に減少。7か月連続のマイナス。2010年度ではエコカー補助金制度終了による下期の反動減に、3月の震災の影響も加わり、前年度比▲7%の437万台2年ぶりに減少、3年連続の500万台割れとなった。3月の新設住宅着工戸数は、前年同月比▲2.4%の6.3万戸10ヶ月ぶりの減少となった。民間非住居建築物は、店舗、工場は増加したが、事務所、倉庫が減少し全体では前年同月比14.7%減となった。	3月末造船手持工事量は44,393千GTで、前月比984千GTの減少。1-3月の新造船受注累計は3,052千GTで、直近ピーク時(08年1-3月)比49.3%と半分程度まで回復。また、3月の建設機械出荷金額は、1,986億円で前年同月比6.5%の増(15ヶ月連続の増)。内訳は内需が11.7%の減。外需は15.4%の増。国内建機の減少は、東関大震災の影響を大きく受けており、4-6月についても、国内外ともにエンジン、部品等の供給能力次第と思われる。	震災前において、首都圏の2011年(暦年)マンション供給戸数は前年比約16%増の5万戸レベルとなる見通し(不動産経済研究所発表)、又、鉄骨需要量(全国)は2010年度418万トに対し2011年度は同等以上の水準が見込まれる等、前年からの改善が期待されていたが、震災の影響を受けこれら計画が後倒しとなっている部分は小さくないと思われる。一方で、今後復興需要や耐震補強工事の増加も見込まれる中、早期に需要水準の一定レベルへの回復も期待される状況。
3. 輸出入動向		2009年度比、2001年度の溶鍛接管の輸入量が23%UPとなっている。	3月の薄板三品輸入実績は、熟延が前月比+19%、冷延が同+11%、亜鉛メッキが▲13%、全体では25万トンと同2.4万トン(+11%)増加となった。 3月の全鉄鋼輸出は、前年同月比12万減(▲2.9%)の409万トンとなった。	3月の輸入通関は、3.4万トで、前月比10%の増加。輸出は34万トで前月比4%増。	1-3月の小形棒鋼輸出量は7.3万トと前年同月比▲3.5万トとなった。 1-3月のH形鋼輸出量は12.7万トと前年同月比横這レベルにて推移した。 一方、1-3月H形鋼輸入量は2.3万トと前年同期比+1.7万トと比較的高水準で推移した。
4. 海外市場動向		ラインパイプ： 豪州向けを主とした大型案件商談の動きが活発化しており、現時点において相当なタイト感有り。現時点に於いて、日本3社は略フルキャパの状況。この状況は2012年央迄は続くと思われる。  油井管： 5月20日付け米国稼動リグ数は1,830基と前年比312基増加しており、掘削は引き続き堅調。しかし原料価格の値下がり懸念から在庫玉の買え控えの動きが出始めている。一方13Cr系など高級材の需要は高く、日本各社ともFull稼動・生産で2012年1Qまでタイトな状況。	IMFが4月に公表した見通しで、「インフレ抑制など課題を抱えながらも総じて世界経済は予想通りの回復を続けている」との見解を示し、11年の世界のGDP成長率を4.5%で1月時点から据え置いている。4月の世界の粗鋼生産量は、1億3千万トンで前年同月比5%増加した。中国やインドなど新興国で引き続き高水準の生産が続いているため、韓国は過去最高を更新した。	ポスコ、CSCは、値上げ基調。中国は、生産過剰もあり、上がってもすぐに下がるという状況。	北米は全般的な景況感は改善傾向にあるが住宅需要低迷が継続していることもあり、本格的な需要回復には今暫く時間を要する見込み。 東アジアの新興国は今後ともインフラ案件が予定されており引続き成長は見込まれるものの、足元は目立った案件の引合は乏しい様子。国際スクラップ市況が足元落着いていることも影響し、マーケットは各国様子見状態の感も有り。
5. トピックス					

発表者	メーカー JFEスチール
発表項目	<p>1. 需給動向 (景況感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本経済は、本年に入ってから以降踊り場からの脱却をほぼ確実にしていたが、3月11日に発生した東日本大震災により状況が一変した。特に資本設備の毀損、サプライチェーンにおける障害、電力不足の問題などから、生産活動が大きく低下しており、輸出や国内向け出荷・販売に大きな影響を及ぼしている。</li> <li>一方、海外経済は、欧米経済が回復基調を維持する中、新興国・資源国経済は旺盛な内需や海外からの資本流入のもとで高成長を続けている。</li> <li>国内鉄鋼需給をみると、4月の粗鋼生産は震災の影響から前年同月比6.3%減の842万トンと2ヶ月連続で前年を下回った。但し、震災により生産を停止していた東日本の事業所の大半は操業を再開しており、供給面では大きな支障は生じていない。</li> <li>一方、震災の影響は需要産業に多大な影響を及ぼしており、3月の用途別受注統計(普通鋼)は、製造業とくに自動車向け的大幅減を受けて5ヶ月振りの前年割れとなった。</li> <li>海外では、4月の世界粗鋼生産(64カ国)が19ヶ月連続の前年増となる1億2695万トン(前年同月比5.0%増)と拡大基調を維持している。特に中国は、昨年後半に生産調整が行なわれたものの、再び増産ペースを強めており、4月粗鋼が5903万トンと年率7億トンを超える水準で推移している。海外市況は、昨年末以降、堅調な需要と原材料価格の高騰を背景に上伸基調で推移してきたが、足元欧米を中心に一服感もうかがえる。</li> <li>日本鉄鋼業は、震災による日本経済の一時的な停滞と鉄鋼需要の落ち込み、夏に向けた電力供給制約の高まり、原料価格の更なる高騰や円高の継続等、様々な不安定要因を抱えている。内外経済動向や鋼材需給動向に細心の注意を払いつつ、被災工場の復旧に取り組み、被災地の復興やその他の地域の経済活動維持において不可欠な素材である鋼材の安定供給を堅持することが肝要である。</li> <li>建設業、製造業ともに震災影響から徐々に回復しつつあるが、今後の動向については依然不透明感が強い。</li> </ul>
2. 需要産業動向	<p>[建築] 3月新設住宅着工戸数6.3万戸(前年同月比2.4%減)。10ヶ月連続で前年比減。 10年度着工戸数81.9万戸と低水準ながら前年比では増(5.6%増)。</p> <p>[自動車] 4月国内販売17万台(前年同月比50.4%減)。8カ月連続前年比減。 3月完成車輸出31万台(＼26.1%減)。15ヶ月振り前年比減。10年度480万台(前年比17.5%増)。 3月四輪車生産40万台(＼57.3%減)。6ヶ月連続前年比減。10年度899万台(前年比1.5%増)。</p> <p>[産業機械] 4月工作機械受注 前年同月比32.3%増の1069億円。17ヶ月連続前年比増。</p> <p>[造船] 2月新造船受注119万GT(前年同月比6.0%増)2ヶ月振り前年比増。 3月末手持工事量 4,439万GT(前月比2.2%減)7ヶ月連続減。 10年度輸出船契約量1,242万GT。前年比はほぼ倍増、3年振りのプラス。</p>
3. 輸出入動向	<p>[輸出] 3月の全鉄鋼輸出は、409万トン、前年同月比2.9%減と2カ月振り前年比減。</p> <p>[輸入] 3月の普通鋼鋼材輸入量は、前年同月比31.5%増の34万トンと15カ月連続で増。 国別では、中国(前年比85.0%増)、韓国(＼19.4%)、台湾(＼44.1%)。</p>
4. 海外市場動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月の世界粗鋼生産は、前年比5.0%増の1億2,695万トン、19ヶ月連続の前年比増。</li> <li>4月の中国の粗鋼生産は、前年比7.1%増の5,903万トン。</li> </ul>